
令和3年



けんき

10月

さいたま市立 大宮北小学校 学校だより

オンラインの1カ月

校長 渡辺 明

2学期が始まって1カ月。緊急事態宣言期間が9月末までの延長となり、市のガイドラインに沿った感染予防対策の日々が続いています。

本校では始業式の翌日、8月27日からオンライン授業をスタートしました。希望する児童は40名余りで、全体の15%ほどでした。さいたま市の平均は21%ということでしたので、やや少なめです。初日は接続状況も順調だったのですが、週明けの8月30日から9月1日にかけては全国的な通信障害が発生し、思うように繋がらない状態でご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。サーバーのメンテナンスやログイン方法の変更などの対応により、9月2日以降は比較的安定して繋がっております。不調だった時期には学校へも続々とお問い合わせがありましたが、「学校も大変ですね。」という声もたくさんいただきました。ありがとうございました。

このオンライン授業は、教室で行われている授業をリアルタイム・双方向の通信で繋げるハイブリット授業と呼ばれる形式のものです。パソコンのカメラを通して、板書や教材を見たり、教員の指示を聞いたりしながら、教室で行われている活動に、できるだけ近い環境で、自宅で取り組めるようにするのが望ましい形です。実際には映像の範囲に限界もあり、オンラインでの教材共有の難しさもあって、期待に応える内容で授業が行えていたかという不安もあります。オンライン連絡帳を設けたり、授業毎に黒板の写真を掲示したり、学級ごとの試みもありました。また、全校オンライン朝会も実施することができましたが、試行錯誤の連続というのが実感です。

教室を回るだけでなく、オンライン授業もネット上で訪問しました。真剣に授業を受けている表情に安心したり、こちらの姿を見つけて手を振ってくれるのが嬉しかったり、モニター越しではあっても「つながり」を感じる瞬間がたくさんありました。また、このオンライン授業の実施を通じて教職員も児童も含め、学校全体のICTスキルが向上したのは確かです。

パーソナルコンピュータの父と呼ばれる計算機科学者のアラン・ケイが1970年代に提唱した理想のコンピュータ像は、「対話型インターフェイス(GUI)を搭載し、子どもでも扱え、片手でも持ち運べる」というものでした。当時の技術では夢のコンピュータでしたが、今現在子どもたちが手にしているGIGAタブレットはまさにその理想の姿です。家庭にもスマホやタブレットを含むコンピュータがあり、手軽にネットワークに繋がることができます。SNSトラブルやネットリテラシーの問題はありますが、今後コンピュータを活用しない生活はあり得ません。

ちょっと前まで、学校にあるパソコンは調べものの道具に過ぎませんでした。今日も子どもたちはタブレットで取り組んだ課題をクラウドに提出したり、撮影した図工の作品を共有して鑑賞したり、楽しそうに、そして効果的に学んでいます。アラン・ケイの言葉に「未来を予測する最善の方法は、それを発明することだ」というのがあります。子どもたちは今、未来を発明する力を育てているのかもしれませんが。時代に伴って学びのツールは変わっても、「わかる楽しさ」「できる楽しさ」は不変であり、その追求が学校教育のテーマです。



西門のひまわり、背丈3メートル？